

交 流

祖国と日本の熱い絆
に 一 役

留友会による 水ギョーザ・チャリティーバザー開催

中国・大水害の被災地に義援金を贈ろうと、8月30日(日曜日)、佐世保市の島瀬公園で水ギョーザのチャリティーバザーを開催した。留友会が主催するこのイベントは、留友会のメンバーと佐世保近郊に就職している元留友会の卒業生が「祖国のためにできることを」と会員や佐世保市に呼び掛け、バザーを開催した。



当日は日曜日とあって買い物客の市民や高校生、親子連れ等が足を止め、本場仕込みの水ギョーザに舌つづみを打ち、大変な盛況だった。

この起りは留友会のメンバーの一人が中国・山東省の母からの電話で災害の様子が日本で報道されていると以上のひどい状況聞き、少しでも祖国の力になればとバザーを実現させた。鵬友会からは前田会長をはじめ



六月二十八日、毎年恒例の長崎県立大学同窓会鵬友会主催による「留友会奨励会」が今年も「レオプラザホテル」2F 鯉太郎で開催されました。留友会を十余名迎え、石村学長をはじめ、長崎県学生部長、その他先生方、鵬友会会長、役員一同とその家族、三十余名が参加して、スキヤキ鍋を囲んでの楽しい会となりました。

留友会を交えて、テーブルごとに鍋を囲んで話の輪がで、短期間にもかかわらず流暢な日本語で、祖国のことや離れて暮らす家族への思い等を語る留学生達の真摯な態度に多くの事を学ばされる思いと同時に、人間としての共通項には、国境はないことを、あらためて感じさせられました。

日本だけでなく、アジア諸国においても、先の見えない経済、不況感の中で、留学生達も厳しい環境に置かれていようであるが、だからこそ、人間的なふれあいがある場が、異国の大小を問わず、大切になるのではないのでしょうか。同窓会メンバーの多くは、子を持つ親の立場としても、我が子と変らぬ年齢の留学生に、エールを送らねばならぬ。

二年毎の盛大な開の催祭典

長崎県立大学同窓会 鵬友会 会報

発行 長崎県立大学鵬友会
佐世保市川下町一三三(大学内)
☎〇九五六一四七五一四六
☎〇一三〇一四七一九〇四四



全国的に鵬友会が一堂に会する二年毎の祭典「鵬友会」が今年も七月十九日佐世保グリーンホテルにおいて開催された。今回は本学開校三十周年を迎えて以来初めての総会であり、役員一同鵬友会の新しいスタートとの観念のもと、次回四十周年更には五十周年へのステップとして飛躍するために

も大事な総会であった。当日は会場が変更になるなど若干の戸惑いはあったが、総勢七十余名が多忙の中参加し、会長挨拶に始まり、鵬友会の主として三十周年記念に向けてのビデオ製作、名簿発行等二年間の本部活動報告、決算報告、各支部の活動報告と滞りなく進行した。関西支部の報告では、今なお残る阪神大震災後の心と都市の復興遅れ、各支部からは活発な支部活動の中にも参加者の拡大問題、連絡網の早期整備、マンネリ化の打破など共感する場面も多数。そして全員一致の前田会長統括要請に会長も快諾、次の目標に向かって新たなスタートを踏み出した。続いて会場をレオプラザホテル佐世保に移し親睦会が。石村学長の挨拶には、本学を思いやる温かい言葉が溢れ、前途



注意!

最近、同窓会名簿を利用した悪質な勧誘が多発しています。

開学三十周年を記念し、鵬友会同窓会名簿第三刊を発行しました。第一刊、第二刊と比較しても分かりますように、事務局の日々の努力により、大幅にクリーニング業務が進行し、会員の皆様のお役に立っていることは大変喜ばしいことですが、同時に各地から、同窓会名簿を利用したと思われる、様々な勧誘の電話が増えたなどの声を耳にします。最近では、勧誘の方法も多様化し、瞬時には勧誘かどうか分かりにくくなっている面もあります。本来の目的である、名簿の内容が正確であればあるほど困ったものとなってきます。同窓会が直接、会員に勧誘の電話を入れることは絶対に有りません。

はつきりとした態度で、断わるべきものはきちんと断わり、自分を守る共に、不正使用防止のために名簿の流出等、取り扱いは充分気を付け、旧交を暖める等の、有意義な利用に役立つことを望みます。おかしなと思ったら、すぐに事務局各支部に確認の電話を入れて下さい。

同窓会名簿第三刊

三十周年を節目として同窓会名簿(第三刊)が発行されました。毎年増え続ける卒業生の足取りを追いかけて、事務局松村さんの苦勞は計り知れないものがあります。タイトルの如く、「何年たっても仲間はずれ」です。きつと懐かしい名前に出会えると思います。購入を希望される方は事務局へお申し込み下さい。

●三、〇〇〇円(送料込み)

住所変更も連絡を!!

事務局において日々名簿のクリーニングをしています。未だ住所の確認が取れない卒業生、変更があるにもかかわらず新住所等の連絡が事務局へ伝わっていない卒業生が多数おられる様です。自分の名簿であるだけでなく、友人にとつての名簿でもあります。変更の際は必ず、各支部長又は同窓会事務局へご連絡下さい。

●長崎県立大学鵬友会事務局
☎ 0956・47・5146

今後の鵬友会活動の目指すもの

鵬友会会長 前田敬一

およそ十二年前、わずかな有志とわずかな資金によって、細々とまた暗中模索の状態が始まった鵬友会の活動が、草野初代会長、原岡第二代会長の指導のもと多数の協力者を得て広がりました。更に関西、中国、福岡、佐賀、長崎、大分と支部を結成することによる横の広がりはたくましい鵬友会を作りました。そして多数の人々の協力は様々な

お願い!!

卒業生の皆さん各支部からの出欠ハガキ等は必ず返信して下さい。ちょっとした心掛けが同窓会を応援しているのです。

長崎県立大学創立三十周年にあたる昨年から今年にいたる間、現役学生に対する就職ガイダンスを実施したり、長崎県立大学のPRビデオを作成し九州管内の高校に提供したり、また、新しい卒業生名簿の発行も行うことができました。ここにいたって、鵬友会は名実ともに長崎県立大学の同窓会として他大学の同窓会にひけをとらないものになつてきたと考えます。

しかしながら、母校長崎県立大学のこの数々の状態をみると様々な面で活性化を必要とする状態にあるのではないかと考えられます。

それは、来年度新設されることになつていいる新しい県立大学の佐世保誘致の失敗、すなわち、我が長崎県立大学の総合大学化の失敗や、就学人口の減少による入学希望者の減少、さらには、不況化での就職難による経済学部に対する志望人口の下降等、様々な原因によつて停滞状態に陥つていいると思われまふ。

創立以来三十年が過ぎても、その知名度は未だ地方区から抜け出せないままであり、今こそ強力に再構築をはかる時期にあるのではないかと考えます。そのためには行われている、新学部設置の大学当局における動きこそはおおいに歓迎すべきものであります。

大学が淘汰されるという時代を目前にして、母校をもたない同窓会とならないため、現在、大学内で行われている総合大学化への準備推進状況を見守りながら、同窓会としてしっかりと対応と行動をおこすことが望まれているものと考えます。

